

## 幾何学3演習 No.1 略解

2017年4月18日(火)

**問題 1** (1)  $O_1, \dots, O_m$  を  $n$  次元ユークリッド空間  $\mathbb{R}^n$  の開集合とする. このとき,  $O_1 \cap \dots \cap O_m$  も  $\mathbb{R}^n$  の開集合になることを示せ.

(2)  $\mathbb{R}^n$  の無限個の開集合の族  $\{O_\lambda\}_{\lambda \in \Lambda}$  で,  $\bigcap_{\lambda \in \Lambda} O_\lambda$  が  $\mathbb{R}^n$  の開集合にならないような例を挙げよ.

**解.** (1) 任意の  $x \in O_1 \cap \dots \cap O_m$  に対して,  $x \in O_1 \cap \dots \cap O_m \subset O_i$  ( $i = 1, \dots, m$ ) であり, 各  $O_i$  が  $\mathbb{R}^n$  の開集合であることから, 正数  $\varepsilon_i > 0$  をうまく選ぶと  $D_{\varepsilon_i}(x) \subset O_i$  とできる. そこで,  $\varepsilon := \min\{\varepsilon_1, \dots, \varepsilon_m\}$  とおけば, 任意の  $i = 1, \dots, m$  に対して,

$$D_\varepsilon(x) \subset D_{\varepsilon_i}(x) \subset O_i$$

となるので,

$$D_\varepsilon(x) \subset \bigcap_{i=1}^m O_i.$$

(2) 任意の自然数  $m \in \mathbb{N}$  に対して  $O_m := (-\frac{1}{m}, \frac{1}{m})$  とおくと,  $O_m$  は  $\mathbb{R}$  の開集合であるが,  $\bigcap_{m \in \mathbb{N}} O_m = \{0\}$  となり,  $\{0\}$  は  $\mathbb{R}$  の開集合でない.

□

**問題 2**  $(X, \mathcal{O}_X)$  を位相空間とし,  $f: X \rightarrow Y$  を  $X$  から集合  $Y$  への写像とする. このとき,  $Y$  の部分集合の族  $\mathcal{O}_Y$  を

$$\mathcal{O}_Y := \{O \subset Y \mid f^{-1}(O) \in \mathcal{O}_X\}$$

と定めると,  $\mathcal{O}_Y$  は  $Y$  の位相となることを示せ.

**解.** まず,  $f^{-1}(Y) = X \in \mathcal{O}_X$ ,  $f^{-1}(\emptyset) = \emptyset \in \mathcal{O}_X$  より,  $Y, \emptyset \in \mathcal{O}_Y$ .

次に, 任意の  $O_1, \dots, O_m \in \mathcal{O}_Y$  に対して,  $f^{-1}(O_i) \in \mathcal{O}_X$  ( $i = 1, \dots, m$ ) であり,

$$f^{-1}(\bigcap_{i=1}^m O_i) = \bigcap_{i=1}^m f^{-1}(O_i) \in \mathcal{O}_X$$

となるので,  $\bigcap_{i=1}^m O_i \in \mathcal{O}_Y$ .

最後に, 任意の開集合の族  $\{O_\lambda\}_{\lambda \in \Lambda} \subset \mathcal{O}_Y$  に対して,  $f^{-1}(O_\lambda) \in \mathcal{O}_X$  ( $\lambda \in \Lambda$ ) であり,

$$f^{-1}(\bigcup_{\lambda \in \Lambda} O_\lambda) = \bigcup_{\lambda \in \Lambda} f^{-1}(O_\lambda) \in \mathcal{O}_X$$

となるので,  $\bigcup_{\lambda \in \Lambda} O_\lambda \in \mathcal{O}_Y$ .

□